

各 位

会 社 名 ユニコムグループホールディングス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 二 家 英 彰
 (J A S D A Q ・ コード 8 7 4 4)
 問合せ先 取締役管理部長 西 山 義 信
 TEL 0 3 - 5 6 2 3 - 5 0 2 7

平成 22 年 3 月 期 第 1 四 半 期 連 結 業 績 と 前 年 同 期 実 績 と の 差 異 に 関 す る お 知 ら せ

平成 22 年 3 月 期 第 1 四 半 期 (平 成 21 年 4 月 1 日 ~ 平 成 21 年 6 月 30 日) の 連 結 業 績 に つ き ま し て、平 成 21 年 3 月 期 第 1 四 半 期 と の 対 比 に つ い て、下 記 の と お り お 知 ら せ い た し ま す。

記

1. 平成22年3月期第1四半期業績

(金額の単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
平成22年3月期第1四半期実績(A)	1,752	76	11	1,112
平成21年3月期第1四半期実績(B)	2,707	314	166	190
増減額(A - B) (C)	954	238	153	921
増減率 (C) / (B)(%)	35.3	-	-	-
(参考)平成21年3月期実績	10,123	2,039	1,700	2,675

2. 差異が生じた要因

当第1四半期連結会計期間における当社グループの営業収益は、以下のとおり商品先物取引業が減収となったことに加えて、平成21年5月18日付で当社の連結子会社であったアイディーオー証券株式会社(以下「ID0証券」)及びエフ・エックス・プラットフォーム株式会社の当社保有株式の全部を売却し両社が連結の範囲から除外された影響から、前年同期実績を下回ることとなりました。

各事業部門別の業績の概況は以下のとおりです。

商品先物取引業

当第1四半期連結会計期間における国内商品先物市場は、市場流動性の低下を背景に値動きの荒い相場展開が続いたことで、個人投資家が取引を手控える傾向が強まった事から、全国商品取引所出来高は8,569千枚と前年同期に比べて32.9%減少となりました。

当社グループにおきましても、上記の市場全体の流れと同様、市場流動性の低下が嫌気されて委託者の売買が手控えられた事から、特に石油市場及び農産物市場における委託売買高が大幅に減少することとなりました。また、当四半期より商品先物のオンライン取引部門を担っていたID0証券が連結除外となりその分委託手数料収入が減少したこともあり、商品先物委託手数料収入は前年同期比37.1%減となる676百万円となりました。また、商品自己売買損益は77百万円(前年同期は3百万円の損失)であったことから、当四半期の商品先物取引業収益は754百万円(前年同期比29.6%減)となっております。

金融商品取引業（証券業）

当第1四半期連結会計期間における国内株式市場は、政府により打ち出された追加経済対策が好感され、国内外の経済指標に好転の兆しが見られ始めたことを背景に、日経平均株価では一時10,000円台をつけるなど、全般的に回復基調となりました。

上記市況を受けて個人の委託者による取引が活況となったことで、証券対面営業を主軸とする日産センチュリー証券株式会社単体での証券委託手数料収入としては前年同期比7.1%の増収となりました。しかし、当四半期より証券オンライン取引部門を担っていたID0証券が連結除外となり、その分手数料収入が減少したことから、当社グループの連結業績上における証券委託手数料では前年同期比3.4%の減収となりました。また、金融収益は前年同期比66.4%減の14百万円であったため、当四半期の証券業収益は841百万円（前年同期比12.3%減）となっております。

上記のとおり2事業部門が減収となったことに加え、ID0証券の連結除外に伴い金融商品取引業（外国為替証拠金取引業）の収益（前年同期は527百万円）が当四半期より計上されないことから、当社グループの営業収益は前年同期比35.3%減となる1,752百万円となりました。一方で、営業費用は連結子会社2社の減少により前年同期比39.5%減となる1,828百万円となり、営業損失は76百万円（前年同期は314百万円の営業損失）、経常損失は11百万円（前年同期は166百万円の経常損失）となっております。

また、当四半期では連結子会社2社の株式譲渡に伴う特別損失として子会社株式売却損1,045百万円を計上したため、当第1四半期純損失は1,112百万円（前年同期は190百万円の第1四半期純損失）となり、前年同期実績との差異が生じることとなりました。

以 上